

# グローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォース 国際競争力強化検討部会(第3回)の結果について

## 1. 概要

2/26(金)開催の国際競争力強化検討部会(第3回)においては、構成員からのプレゼンテーションの後、フリーディスカッションが行われた。

## 2. 構成員プレゼンテーションの概要

- (1) **福地構成員:** 優れた防災システムをトータルパッケージとしてアジア諸国に展開すべき。コンテンツの海外発信を積極的に行い、日本の認知度向上や観光客の誘致等を進めるべき。また、標準化は海外機関と連携して進めることが効果的。次世代スーパーハイビジョン等で国際標準を目指すべき。
- (2) **三浦構成員:** ICTは国家戦略として重要。行政・医療・教育等の分野でICTの利活用を進め、ICTを活用した社会システムの成功モデルをグローバル展開すべき。中でも、政府自ら工程表を持ち、電子政府を進めるべき。また、標準化にあたっては、「仲間作り」が重要。海外展開に際しては、ファイナンスなども含め、官民一体で推進すべき。

## 3. フリーディスカッションにおける主な論点とやり取り

### (1) ベンチャー企業・中小企業支援について

- ・ シリコンバレーの底力は、「起業したくなる環境」と「起業しやすい環境」。我が国も、全世界から優秀な人材が集まる仕組みを整え、多国籍人材チームのパワーを活用すべき。
- ・ 中小のベンダを育て、すそ野を広げることが必要。民間主体の団体会場への官によるサポートも検討すべき。

### (2) ICT基盤インフラの整備について

- ・ 光の基盤整備は進んでいるが、普及率は3割にとどまっている。アクセス手段は多様であるべきだが、光や無線を含めた基盤インフラ整備の方向性を定め、産官で整備を進めるべき。
- ・ 諸外国に比べて日本の光回線の普及率は高い。光以外にも色々なアクセス手段があり、その選択はユーザに任せるべき。一般的なICTサービスを利用するための基盤は整備されているため、利活用の推進が重要。

### (3) コンテンツの振興について

- ・ コンテンツの海外発信等については、コンテンツ振興検討チームにて議論中。3月末～4月を目処に取り纏め予定。あとは実行あるのみであり、できることはやるという姿勢が大切。
- ・ 放送分野においては、欧米よりアジアとの連携が現実的。日本・韓国・中国の3国で連携を図り、マーケットの共有を図るべき。

### (4) 標準化について

- ・ 競争力のためには国際標準を勝ち取ることが大切。スマートグリッド・3D・ITSは、日本方式が国際標準をとれば強みになる。早急に国内標準を策定し、国際標準を目指すべき。

### (5) その他

- ・ 企業にとって円高の影響は大きい。円高容認の金融政策を国家として再考すべき。また、ボーダレスな時代では、企業が立地しやすい環境かどうかが国の競争力の尺度となる。
- ・ 国として大きな戦略を持つことが必要。バラバラに取り組んでも競争力はつかない。日本の場合は、「アジアとの共生」「アジアの一国」という視点に立って政策判断すべき。
- ・ 技術では勝っているのに最終プロダクトで負けることを防ぐには、しなやかでしたたかな戦略が必要。また、省庁間の戦略の整合性・統合性をとることが重要。
- ・ 中国人の海外渡航者は、5年後には1億人に達する。そのうちの1,000万人を日本に招き入れるためのハードやソフトが日本にあるのか。この観点からもICTを活用することも重要。